

1-2 日本思想史

研究・教育活動の概要と特色

日本思想学は諸外国や諸民族との対比において、「日本的」なものの考え方や価値観の形成過程とその独自性を、歴史的な視点から客観的に明らかにしようとする学問です。この列島上で展開された、古代から現代までのさまざまな思想的営みを広く明らかにすることによって、人間とは何か、「日本人」とは何か、といった問題を探っていくことを目的としています。

東北大学の日本思想史研究室は、博士後期課程までを持つこの分野では国立大学法人中の唯一の研究室として、大正12年の開設以来、一貫して日本思想史研究界の中心的役割を担い、多数の優れた研究者を国内外に送りだしてきました。教育界などでも多くの修了生が活躍しています。

本研究室では授業のほかに、定例研究会や史料講読会の開催、学術雑誌の刊行など、大学院生を主体とする活発な研究活動が行われています。また教員が毎年国際学会で発表するなど、国内外の大学・研究機関・研究者との学問的・人的交流も、年々盛んになっています。

I 組織

1 教員数 (2015年5月20日現在)

教授： 1

准教授： 1

講師： 0

助教： 0

教授：佐藤 弘夫

准教授：片岡 龍

助教：森川 多聞 (コンピュータ室)

2 在学生数 (2015年5月20日現在)

学部 (2年次以上)	学部 研究生	大学院博士 前期	大学院博士 後期	大学院 研究生
26	0	11	14	1

3 修了生・卒業生数（2010～2014年度）

年度	学部卒業生	大学院博士課程 前期修了者	大学院博士課程 後期修了者 (含満期退学者)
10	10	5	3
11	7	0	2
12	8	4	2
13	6	3	3
14	8	4	2
計	39	16	12

II 過去5年間の組織としての研究・教育活動（2010～2014年度）

1 博士学位授与

1-1 課程博士・論文博士授与件数

年度	課程博士授与件数	論文博士授与件数	計
10	3	0	3
11	2	1	3
12	3	1	4
13	3	0	3
14	2	0	2
計	13	2	15

1-2 博士論文提出者氏名、年度、題目、審査委員

水野雄司、2010年度、『本居宣長の思想構造』

審査委員：教授・佐藤弘夫（主査）、教授・佐藤伸宏、准教授・片岡龍

鈴木啓孝、2010年度、『陸羯南と原敬—明治青年の思想形成と日本ナショナリズム—』

審査委員：教授 佐藤弘夫（主査）、教授 佐藤伸宏、准教授 片岡龍

森新之介、2010年度、『摂関院政期思想史研究』

審査委員：教授 佐藤弘夫（主査）、教授 鈴木岩弓、准教授 片岡龍
高橋博巳、2011年度、『文人の世紀』

審査委員：教授 佐藤弘夫（主査）、教授 佐藤伸宏、教授 佐倉由泰
森川多聞、2011年度、『20世紀初頭における「個人」と「集団」の思想——旧制
第一高等学校に思想形成した人々の「集団」へのもどり方』

審査委員：教授 佐藤弘夫（主査）、教授 佐藤伸宏、准教授 片岡龍

葛睿、2011年度、『西村茂樹の思想的研究—学問・宗教そして道徳—』

審査委員：教授 佐藤弘夫（主査）、教授 佐藤伸宏、准教授 片岡龍
中嶋英介、2012年度、『近世武士道論研究—山鹿素行と大道寺友山を中心に—』

審査委員：教授 佐藤弘夫（主査）、教授 佐倉由泰、准教授 片岡龍
高橋恭寛、2012年度、『近世における「学問」の誕生—中江藤樹の教導思想—』

審査委員：教授 佐藤弘夫（主査）、教授 三浦秀一、准教授 片岡龍
岡安儀之、2013年度、『福地源一郎研究序説—明治前期における「公論」と「国
民」の形成—』

審査委員：教授 佐藤弘夫（主査）、教授 安達宏昭、准教授 片岡龍
小嶋翔、2013年度、『近代日本における個人と秩序の政治思想—与謝野晶子・平
塚明子の思想史的研究—』

審査委員：教授 佐藤弘夫（主査）、教授 佐藤伸宏、准教授 片岡龍
村上麻祐子、2013年度、『日本古代銭貨の時代性と超歴史性』

審査委員：教授 佐藤弘夫（主査）、教授 鈴木岩弓、准教授 片岡龍
モリス・ジョナサン・ポール、2014年度、『*The Bodily Incorruptibility of Holy
Men and Women in Pre-Modern Japan and Europe*』

審査委員：教授 佐藤弘夫（主査）、教授 鈴木岩弓、准教授 片岡龍
吉川裕、2014年度、『交遊と不朽の古文辞学—服部南郭研究序説—』

審査委員：教授 佐藤弘夫（主査）、教授 高橋章則、准教授 片岡龍

2 大学院生等による論文発表

2-1 論文数

年度	審査制学術誌 (学会誌等)	非審査制誌 (紀要等)	論文集 (単行本)	その他	計
10	10	3	0	5	18
11	10	5	6	1	22
12	8	5	0	3	16
13	5	7	5	3	20
14	8	8	0	1	17
15	0	0	0	0	0
計	41	28	11	13	93

*2015年度は5月20日までの数字。ただし、以後の掲載が決定しているものも含む。

2-2 口頭発表数

年度	国際学会	国内学会	研究会	その他	計
10	8	10	9	2	29
11	10	18	6	0	34
12	3	7	12	2	24
13	6	9	11	6	32
14	1	5	10	2	18
15	0	0	0	0	0
計	28	49	48	12	137

*2015年度は5月20日までの数字。ただし、以後の発表が決定しているものも含む。

研究会については概数。

2-3 上記の大学院生等による論文・口頭発表の中の主要業績

(1) 論文

中嶋英介「【資料紹介】村岡典嗣「仙台の吉利支丹について」」『東北大学史料館紀要』5号、2010年（本村昌文との共著）

中嶋英介「【書評】竹村英二著『幕末期武士/士族の思想と行為—武人性と儒学の相生的素養とその転回』」『日本経済思想史研究』10号、2010年

中嶋英介「大道寺友山『武道初心集』考」書物・出版と社会変容9号、2010年
ニネット・サチコ・ペーチュ、森新之介（共訳）マーク・テーウエン（著）「神道（ジンドウ）と神道（しんとう）の成立についての比較考察」、『日本思想史研究』第42号、2010年。

森新之介「法然房源空の二門判と二行判——その能否と難易、勝劣について——」、『宗教研究』第366号、2010年。

森新之介「法然房源空の思想形成過程——その凡夫意識と自行志向について——」『日本思想史研究』第43号、2011年。

葛睿「西村茂樹における神道観——国民道德の基礎をめぐって——」『宗教研究』第368号、2011年6月。

高橋恭寛「晩年の中江藤樹における修養論の一側面—対算と慎独をめぐって—」『日本思想史研究会報』27号、日本思想史研究会（京都）、2010年3月

高橋恭寛「中江藤樹による初学者への教示」『文化』74号1・2号、東北大学文学会、2010年。

高橋恭寛「中江藤樹の学問—独学と講論の間—」『文藝研究』第172号、2011年9月。

高橋恭寛「中江藤樹における「持敬図」変容の問題」『研究東洋：東日本国際大学東洋思想研究所・儒学文化研究所紀要』第2号、2012年3月。

高橋恭寛「徳川期儒者における「立志」教示の一展開—中江藤樹を中心として—」『次世代人文社会研究』第8号、2012年3月。

高橋恭寛「中江藤樹の福善禍淫論再考」『日本思想史学』第44号、2012年9月。

吉川裕「護園学派における交遊と「楽」——服部南郭を中心に」『日本思想史研究会会報』28号、2011年

吉川裕「伊東藍田と反徂徠—『作詩志毅』を中心として—」『日本思想史研究』44号、2012年3月

吉川裕「交遊の詩学—服部南郭の古文辞学—」『日本思想史学』46号、2014年9月。

アントニウス・プジョ「新渡戸稲造の神道観」『日本思想史研究』第43号、2011年。

Morris Jonathan 'Issues in Constructivism and Comparative Research from a Religious Studies Perspective' (『公益学研究』第11巻第1号, pp72-79, 2011, 査読付き論文)

Morris Jonathan 【翻訳】Hikino Kyōsuke "Hōnen" and "Shinran" in Early Modern Jōdo Shinshū 'The Eastern Buddhist' NS42-1, 2011.

Morris Jonathan 【翻訳】Tanigawa Yutaka 'No separation, No clashes: An Aspect of Buddhism and Education in the Meiji Period' 'The Eastern Buddhist' NS42-1 2011.

Morris Jonathan 'Philosophy, Theory and Case Studies in Buddhist Materiality' UTCP Graduate Conference 2012 Practicing Japanese Philosophy Mind and Activity 紀要 (東京大学)、2012年2月。

ジョナサン・モリス 「『弘智法印御伝記』と即身仏の研究」 (『宗教研究』第371号、2012年3月)

ジョナサン・モリス 「書評: Karen M. Gerhart 'The Material Culture of Death in Medieval Japan」 (『年報日本思想史』第11号、2012年3月)

Morris Jonathan, Paul L. Swanson (Ed.) 英語共訳: Iida Takafumi, 'The Full Gospel Church and Korean Shamanism in Japan-Resident Korean Society: Shamanism as a Universal Foundational Religion' Pentecostalism and

- Shamanism in Asia, Nanzan Institute for Religion and Culture, (2013年4月) p122-146
- ジョナサン・モリス「腐敗せざる遺体——corpora incorrupta の思想史的系譜」
『論集（印度学宗教学会）』39号（2013年4月）査読あり、p82-57
- Morris Jonathan 「【翻訳】 Yanagihara Toshiaki ‘Onmyō dō in the Muromachi Period’」 ‘Japanese Journal of Religious Studies’ Vol.40（2013年5月） p131-150
- ジョナサン・モリス 「弘法大師入定説の形成」 『日本思想史研究』45号（2013年10月） p1-18
- 片岡龍 李月珊 モリス・ジョナサン（共訳）「ジェームズ・マクマレン「荻生徂徠、松平定信と寛政期の孔子崇拜」（『日本思想史研究』45号（2013年10月） p38- 61
- Morris Jonathan ‘Puñña and Systematic Soteriology in Early Buddhism’
「Vijjavimutti」 (Festschrift of the Buddhist and Pali College of Singapore)（2013年12月） p285-293
- ジョナサン・モリス「弘法大師入定説と神仙譚」 『年報日本思想史』第14号（2014年3月） p1-15
- Hayashi Makoto, Ō tani Eiichi, and Paul L. Swanson, (Eds.) ‘Modern Buddhism in Japan’ Nanzan Institute for Religion and Culture, 2014 Translation of Hayashi Makoto, ‘Religious Studies and Religiously Affiliated Universities’ p163-194
- 村上麻佑子「古代日本における食国の思想」 『日本思想史学』第44号、2012年
村上麻佑子「古代の時間認識からみる統治の正当性の変遷」 『日本思想史研究会会報』29号、2013年。
- 小嶋翔「明治期与謝野晶子における自己認識の変容」 『日本思想史学』42号、2010年9月)
- 小嶋翔「大正初期における与謝野晶子の国民意識——母性保護論争前史として」
『日本思想史研究』43号、2011年3月。
- 小嶋翔「何者でもない者、何者かでありたい者、「自分」—らいてう平塚秋子の初期思想闘争—」 『文藝研究』第174集、日本文藝研究会、2012年9月。
- 小嶋翔「吉野信次の思想形成—旧制第一高等学校時代を中心に—」 『吉野作造研究』第9号、吉野作造記念館、2013年4月。

- 小嶋翔「与謝野晶子の「経済的独立」論再考—第一次大戦下の生活意識と個人の倫理的独立」『歴史』第121輯、東北史学会、2013年10月
- 小嶋翔「与謝野晶子と蘇峰」（分担執筆）、杉原志啓・富岡幸一郎編『稀代のジャーナリスト 徳富蘇峰 1863-1957』（藤原書店、2013年12月）
- 島田雄一郎「「敬」に出会い、「敬」に学ぶ」（『公共的良識人』第241号、平成23年12月1日発行、京都フォーラム事務局・『月刊公共哲学』第14号、2012年2月1日発行、東亜古典研究所、韓国語版）
- 島田雄一郎「「共同体」から「共働態」へ——「与他共楽」の理念」（『月刊公共哲学』第15号、2012年3月1日、東亜古典研究所、韓国語版・『公共的良識人』第246号、平成24年5月1日発行、京都フォーラム事務局）
- 島田雄一郎「富士川游の宗教論の展開——「科学」との関係性をめぐって」（『日本思想史研究』第46号、2014年）
- 宣芝秀「「御救」から「御備」へ——松平定信「寛政の改革」にみられる社会安定策——」『日本思想史研究』44号、2012年3月。
- 油座圭祐「柳田國男のサンカ思想」（『日本思想史研究』第46号、2014年）
- 芹澤寛隆「日蓮聖人における「時」認識——御遺文・曼荼羅に見られる「年号」に対する意識を中心として——」（『仏教学論集』29号 立正大学大学院仏教学研究會 2012年3月発行）
- 芹澤寛隆「『本尊聖教録』外典部所収の文献と日蓮遺文について」（『印度學佛教學研究』61号 日本印度學佛教學會 2012年）
- 芹澤寛隆「日蓮における「類書」「金言集」」（『日本思想史研究』44号 2012年3月）
- 芹澤寛隆「日蓮聖人遺文における中国史上の王・皇帝」『大崎学報』169号（2013年3月）
- 芹澤寛隆「日蓮遺文における人物の引用について」（『宗教研究』87巻別冊 第七二回學術大會紀要特集 2014年3月）
- 芹澤寛隆「宗祖における説話の受容と展開 —第六天魔王譚について—」（『桂林学叢』23号、2014年）
- 芹澤寛隆「日蓮遺文における貞慶の影響について」（『印度學佛教學研究』63巻1号、2014年12月）
- 芹澤寛隆「日蓮遺文における説話の活用」（『宗教研究』88巻別冊 第73回學術大會紀要特集、2015年3月30日）

- 赤谷正樹「慈恵はなぜ清盛に生まれ変わったのか——『平家物語』の「慈恵再誕説話」を中心に——」（『日本思想史研究』46号、2014年度刊行予定）
- ポロヴニコヴァ・エレナ「近世庶民の「世界」像——節用集の世界図を中心に——」（『日本思想史研究』第45号、2013年）
- ポロヴニコヴァ・エレナ「近世庶民の自他認識——節用集の人物図を資料として——」（『文藝研究』第176集、2013年9月）
- ポロヴニコヴァ・エレナ「大雑書に表現される「世界」観——「須弥山図」と「地底鯨之図」を中心に——」（『日本思想史学』第46号、2014年9月）
- ポロヴニコヴァ・エレナ「近世庶民の異界観——異界双六を中心に——」（『日本思想史研究』第46号、2014年9月）
- 李月珊「近世日本の積奠をめぐる思想の一実態——浅見綱斎を例として——」（『日本思想史研究』45、2013年）。
- 片岡龍・ジョナサン・モリス・李月珊（共訳）ジェームズ・マクマレン（著）「荻生徂徠・松平定信と寛政期の孔子崇拜」（『日本思想史研究』45、2013年）。
- 李月珊「近世日本の孔子祭礼——積奠について」（『中国日本学研究優秀碩士論文「卡西欧杯」獲獎論文選』、（北京）学苑出版社、2013年11月）
- 李月珊「会津藩日新館の積奠礼について：——「学統」の後退・「公論」の登場」（『研究東洋：東日本国際大学東洋思想研究所・儒学文化研究所紀要』第4号、2014年2月）
- 邢永凤・李月珊「近世日本的祭孔与统治者」（『アジアの歴史と文化』第18号、2014年3月）
- 李月珊「中村惕斎と元禄期の儒教儀礼——積菜儀節・孔子像に見られる「礼文」と「人情」——」（『日本思想史研究会会報』（31）、2015年1月）
- クラウタウ、オリオン「大正期における日本仏教論の展開——高楠順次郎の思想的研究・序説」（『日本思想史学』第42号、2010年9月）
- クラウタウ、オリオン「十五年戦争期における日本仏教論とその構造——花山信勝と家永三郎を題材として」（『佛教史学研究』第53号・第1号、2011年11月）
- クラウタウ、オリオン「〈新刊紹介〉小川原正道編『近代日本の仏教者——アジア体験と思想の変容』」（『近代仏教』第18号、2011年5月）
- KLAUTAU, Orion. "TANIGAWA Yutaka. *Meiji Zenki no kyōiku, kyōka, bukkyō*" *Japanese Journal of Religious Studies*, 38/1, 2011
- KLAUTAU, Orion. "(Re)inventing 'Japanese Buddhism': Sectarian Reconfiguration and

Historical Writing in Meiji Japan”. *The Eastern Buddhist* (new series), 42/1, 2011
KLAUTAU, Orion. “The Field of ‘Religious Studies’ in Brazil”. *Pantheon: Journal for the
Study of Religions* (University of Pardubice), 8/1, 2011

船田淳一「南都の中世神話・神道説をめぐって——春日社・興福寺・貞慶を中心
に——」（伊藤聡編『〈中世文学と隣接諸学3〉中世神話と神祇・神道世
界』竹林舎、2011年4月1日）。

船田淳一「聖地における本地仏と儀礼——石清水八幡宮の愛染明王信仰——」（藤巻
和宏編『聖地と聖人の東西——起源はいかに語られるか——』勉誠出版、2011年
8月31日）。

船田淳一「中世神道における冥と顕——慈遍の著作を中心に——」（池見澄隆編
『中世——冥・顕の精神史——』法蔵館、2012年3月）。

船田淳一「浄土宗と神仏習合——中世律宗の天照説話から近世浄土宗の天照説話
へ——」（佛教大学総合研究所編『法然上人八〇〇年大遠忌記念 法然仏教
とその可能性』法蔵館、2012年3月）。

船田淳一「書評 伊藤聡著『中世天照大神信仰の研究』」（『説話文学研究』4
7号、2012年7月）

船田淳一「中世の神祇・神道説と東アジア」（『説話から世界をどう解き明かす
のか』笠間書院、2013年7月）

船田淳一「南都戒律復興における受戒儀礼と春日信仰の問題」（赤松徹真編『日
本仏教の受容と変容』永田文昌堂、2013年7月）

船田淳一「中世巡礼の精神史——山林修行者と冥界の問題——」（『日本思想史
学』45号、2013年9月）

（2）口頭発表

中嶋英介「武士道論研究の現在と山鹿素行」東北アジアにおける多文化共生の実
態研究（分科会：東北アジアにおける伝統文化と思想） 中華人民共和国内
蒙古自治区、2011年8月

葛睿「近代中国における国民道徳と宗教——章炳麟を中心に——」,東洋大学,
日本宗教学会第69回学術大会, 2010年9月3日～5日

葛睿「明治初期における「国民」言説に関する一考察——西村茂樹を中心に——」,
2010年11月6日、日本思想史月例会口頭発表。

葛睿「国民道徳論と儒教——西村茂樹を中心に——」, 2010年11月20日、東ア

- ジアの思想と対話・日韓国際シンポジウム。
- アントニウス・プジョ「若き新渡戸稲造の神道観」、日本文芸研究会、福島大学、2010年6月20日
- 高橋恭寛、「中江藤樹における修養論の多面性」奈良女子大学・東北大学合同研究会、2010年8月
- 高橋恭寛、日韓次世代学術フォーラム第7回国際学術大会、指定討論者(分科7[宗教・思想])、2010年6月
- 高橋恭寛、「中江藤樹における福善禍淫論」日本思想史研究会(京都)例会、2010年12月
- 高橋恭寛、「中江藤樹『持敬図説』と四書」日本文芸研究会第六三回研究発表大会、2011年6月
- 高橋恭寛、「江戸初期における善書受容の一形態—中江藤樹を中心にして—」東北アジアにおける多文化共生の実態研究国際シンポジウム、2011年8月
- 高橋恭寛、「江戸儒者における「立志」教示の一展開—中江藤樹を中心として—」日韓次世代学術フォーラム 第8回国際学術大会(分科7[宗教・思想])、2011年8月。
- 高橋恭寛「中江藤樹による『孝経』理解の再検討」日本思想史研究会(京都)例会、2011年11月。
- 高橋恭寛「闇斎学派における埋葬した身体について」東北心身形象研究会、2012年6月。
- 高橋恭寛「徳川前期における学問の普及について」厦門大学 2012年「東アジアと日本学」国際シンポジウム、2012年7月。
- 高橋恭寛「徳川日本の儒学—中江藤樹を題材として—」「戦前期の帝国大学における研究体制の形成過程」シンポジウム(北京)、2012年9月。
- 高橋恭寛「徳川前期の学問観」蘭州大学日本語・日本文化研究会、2012年9月。
- 高橋恭寛「儒葬における身体と東北」東北心身形象研究会、2012年9月。
- 吉川裕「村井古巖ってどんな人？」第一回なみこしえんにち、2010年5月、於雲上寺
- 吉川裕「江戸文人の死生観—服部南郭を中心として—」タナトロジー研究会、2010年6月、於緩和ケアクリニック仙台
- 吉川裕「伊東藍田の当代批判—「名説」を中心に—」日本思想史学会大会、2011年10月30日、於学習院大学

吉川裕「護園学派における交遊と「楽」—服部南郭を中心として—」日本思想史研究会（京都）例会、2010年12月

吉川裕「「荻生徂徠の墓」の名所化」日本文芸研究会近世小研β「近世の世界へようこそ」2011年6月

吉川裕「護園学派における「不朽」の意義—服部南郭を中心として—」和漢比較文学会第30回大会、2011年9月

吉川裕「「荻生徂徠の墓」の名所化—近世中期から後期における墓所の名所化試論—」日韓次世代学術フォーラム 第8回国際学術大会(文科9[文化・芸術])、2011年8月

吉川裕「不朽の詩文と徂徠学—服部南郭を中心として—」日本文芸研究会平成23年度第2回研究発表会、2011年

吉川裕「江戸文人と墓所—荻生徂徠の墓の名所化—」近世の宗教と社会研究会米沢例会、2012年6月

吉川裕「江戸漢詩における「日常性」の獲得—徂徠学を出発点として—」日本思想史研究会7月例会、2013年7月

吉川裕「江戸文人と墓—服部南郭を中心に—」日中若手研究フォーラム、2013年9月、於 北京日本学研究センター

ジョナサン・モリス「聖人のミイラ化と浄土思想について」（2009年4月25日、日本思想史研究会4月例会）

ジョナサン・モリス「弘法大師入定説と往生伝文学について」（2009年10月、日本思想史学会2009年度大会）

Morris Jonathan International Association of the History of Religions, at the University of Toronto, August 15-21, 2010 '*Pure Land Thought and the Legend of the Eternal Meditation of Kukai.*

ジョナサン・モリス「弘法大師入定説の成立と展開について」（2010年12月、日本思想史研究会例会、於：立命館大学）

Morris Jonathan International Medieval Congress, at the University of Leeds 11-14 July 2011 '*Between Life and Death in Medieval Japan and Europe*'

ジョナサン・モリス「『弘智法印御伝記』と即身仏の研究」（2011年9月、日本宗教学会第70回学術大会）

Morris Jonathan 2012年2月 'Philosophy, Theory and Case Studies in Buddhist Materiality' UTCP Graduate Conference 2012 Practicing Japanese

- Philosophy Mind and Activity (東京大学)
- ジョナサン・モリス 2012年6月 印度学宗教学会「ミイラにみる宗教の力ー〈絆〉再考ー」 (東北福祉大学)
- ジョナサン・モリス 2012年6月 東北心身形象研究会「ミイラにみる宗教の力」 (東北大学)
- ジョナサン・モリス 2012年9月 日本宗教学会第70回学術大会「Corpora incorrupta に関する思想史的考察」(皇學館大学)
- ジョナサン・モリス 2012年11月 東北文化研究会『弘法大師入定説再考』(東北大学)
- 小泉礼子『近世往生伝』から見えてくるもの——古代の往生伝と比較して——。
介護と看取りのセミナー、2012年7月28日、於緩和ケアクリニック仙台。
- 小泉礼子「平安浄土思想における「善知識」——千観の『十観発心記』を中心に——」日本文芸研究会平成25年度第2回研究発表会、2013年12月7日、於一関工業高等専門学校
- 村上麻佑子「古代日本における食国の思想」2011年度日本思想史学会大会、2011年10月、於学習院大学
- 村上麻佑子「食国」・「食国天下」の思想構造についての検討」日本思想史研究会(京都)、2011年12月、於立命館大学
- 村上麻佑子「食貨志からみる日本古代銭貨の意義」日本の経済思想——時間と空間の中で——、2012年3月、於上智大学
- 村上麻佑子「近世の死と看取りのかたちー近世往生伝を通して考えるー」介護と看取りのセミナー、2012年7月、於緩和ケアクリニック仙台
- 小嶋翔「与謝野晶子の国民意識」日本思想史研究会4月例会、2010年4月
- 小嶋翔「第一次『明星』誌上における与謝野晶子の二つの「自我」」日本文芸研究会平成22年度第1回研究発表会、2010年9月
- 小嶋翔「何者でもない者、何者かでありたい者、「自分」——らいてう平塚明子の初期思想闘争」日本思想史学会、2011年10月
- 小嶋翔「近代思想史研究における「生活」概念史」日本思想史研究会7月例会、2013年7月
- 小嶋翔「近代日本における民間社会事業の思想史的意義——消費組合運動に注目して——」日中若手フォーラム、北京外国語大学、2013年9月
- 島田雄一郎「福沢諭吉における「理」と「情」ーその道德観の一考察ー」(日本

- 思想史研究会 6 月例会、東北大学、2010 年 6 月)
- 島田雄一郎「福沢諭吉における非合理的な「人情」への対処」(日本思想史学会
2010 年度大会、岡山大学、2010 年 10 月)
- 島田雄一郎「「開国」としての「人間交際」—福沢諭吉による『西洋事情外編』
訳述をめぐって—」(日本思想史研究会(京都)例会、2011 年 12 月 22 日、
立命館大学)
- 島田雄一郎「福沢諭吉における「交際」と「独立」—共働的存在としての人間理
解—」(日韓次世代学術フォーラム第 9 回国際学術大会、2012 年 6 月 30 日、
一橋大学)
- 島田雄一郎「形なき「安心」—福澤諭吉の人生観に表れる宗教性—」(日本宗教
学会第 71 回学術大会、2012 年 9 月 8 日、皇學館大学)
- 島田雄一郎「小川原正道氏『福澤諭吉の政治思想』を読む」(福澤研究センター
ワークショップ、2012 年 9 月 24 日、慶應義塾大学)
- 島田雄一郎、日韓次世代学術フォーラム第 10 回国際学術大会、指定討論者(2013
年 6 月 29 日、東西大学校(韓国))
- 島田雄一郎「近代日本の医療者の倫理と死生観——近藤常次郎と富士川游の場合」
(2013 年度日本学術振興会二国間交流事業オープンパートナーシップ・セミ
ナー「介護と看取りの現場に根ざす新たな思想史・文化史研究の構築」、2013
年 11 月 1 日、北京日本学研究中心(中国))
- 島田雄一郎「近代仏教と科学—富士川游を中心に—」(日本宗教学会第 73 回学術
大会、2014 年 9 月 13 日、同志社大学)
- 島田雄一郎「近藤常次郎の病と死の受容—近代日本の医療が直面した問題—」(思
想・文化フォーラム日中若手研究者学術交流セミナー、2015 年 3 月 14 日、岡
山大学)
- 芹澤寛隆「日蓮聖人における時間認識—御遺文・曼荼羅に見られる「年号」に対
する意識を中心として—」第 64 回日蓮宗教学研究発表大会 2011 年 10 月 29
日 於 身延山大学
- 芹澤寛隆「日蓮聖人における「類書」「金言集」」第 25 回法華宗教学研究発表大
会 2012 年 2 月 7 日 於 東京フォーラム
- 芹澤寛隆「『本尊聖教録』外典部所収の文献と日蓮遺文について」第 63 回 日本
印度学仏教学会学術大会 2012 年 6 月 30 日 於 鶴見大学
- 芹澤寛隆「日蓮聖人所覧の文献と御遺文の照合」第 65 回日蓮宗教学研究発表大会

2012年11月10日 於 日蓮宗宗務院
芹澤寛隆「日蓮における説話の受容について—一人物に関する記述を手がかりとして—」日本思想史学会 2012年度大会、2012年10月28日 於 愛媛大学
芹澤寛隆「日蓮聖人における政治史上の王・皇帝」法華宗教学研究発表大会、2013年2月22日 於 京都キャンパスプラザ
芹澤寛隆「日蓮遺文における人物評価」法華宗教学研究総会、2013年9月5日、
於 ホテルラフォーレ新大阪
芹澤寛隆「日蓮遺文における人物の引用について」日本宗教学会第72回学術大会、
2013年9月7日 於 國學院大學
芹澤寛隆「法華経と御鬘」（パネルセッション「思想史としてのおみくじ」）日本
思想史学会 2013年度大会 2013年10月20日 於 東北大学
芹澤寛隆「日蓮遺文における賢愚について」日蓮宗教学研究発表大会 2013年10
月26日 於 立正大学
芹澤寛隆「法華経と御鬘」法華宗教学研究発表大会 2014年3月14日 於 東
京国際フォーラム
芹澤寛隆「日蓮遺文における貞慶の影響について」日本印度学仏教学会第65回学
術大会 2014年8月30日 於 武蔵野大学有明キャンパス
芹澤寛隆「説話による日蓮証人御遺文の真偽について—「四恩抄」における事例
—」法華宗教学研究総会 2014年9月9日 於 京都本能寺
芹澤寛隆「日蓮遺文における説話の活用」（日本宗教学会第73回学術大会、2014
年9月13日、於同志社大学）
芹澤寛隆「日蓮遺文の真偽—説話の内容を軸として—」（日本思想史学会 2014
年度大会、2014年10月26日、於愛知学院大学）
中港えり「埋葬方法から見る死後のゆくえ」（日本思想史研究会7月例会、東北
大学、2011年7月）
赤谷正樹「平安末期の死と埋葬—『平家物語』を中心に—」（日本思想史研究会
6月例会、2012年6月30日、東北大学）
赤谷正樹「平家物語の思想史的研究—清盛の慈恵僧正再誕説話を中心に—」（日
本文芸研究会平成25年度研究発表大会、2013年6月9日、山形大学）
ポロヴニコヴァ・エレナ「近世後期の節用集における空間認識—『萬寶節用富
貴蔵』を例に一」（日本思想史研究会4月例会、2012年4月28日、東北大学）
ポロヴニコヴァ・エレナ「近世中期の「他者」像—『大魁節用悉皆不求人』の

- 人物図を中心に―」（日中若手フォーラム、於北京外国語大学日本学研究センター、2013年9月21日）
- ポロヴニコヴァ・エレナ「大雑書に表現される「世界」観―大地に対する認識を中心に―」（日本思想史学会2013年度大会、於東北大学、2013年10月20日）
- ポロヴニコヴァ・エレナ「近世庶民の異界観―「この世」と「あの世」の重複―」（日本思想史学会2014年度大会、2014年10月25日、於・愛知学院大学）
- 李月珊「水戸藩弘道館の孔子祭礼」（第一回日中若手研究フォーラム、於中国・北京外国語大学、2013年9月）
- 李月珊「近世後期の藩校における「神」の祀り―津藩有造館の積奠をめぐる論争と実践―」（日本思想史学会2013年度大会、於東北大学、2013年10月）
- 李月珊「近世日本の積奠詩と積奠礼」（日本文芸研究会第66回研究発表大会、於東北大学、2014年6月）
- 李月珊「「国家儀礼」としての孔子祭礼―江戸幕府儒者林鳳岡の野望―」（多文化視野の中の日本学フォーラム、於中国・山東、2014年9月）
- 李月珊「林家の祭祀空間―幕府儒者の家業と「儒教」―」（日本宗教思想史研究会、於東京大学、2014年10月）
- 李月珊「『詩経』玄鳥詩の解釈をめぐる言説―日本近世の場合―」（日本文芸研究会平成26年度第2回研究発表会、於東北大学、2014年12月）
- 李月珊「近世における公家積奠の伝統」（日本思想史研究会（京都）、於立命館大学、2015年1月）
- 楊妍「一九二〇年代日中両国におけるエレン・ケイの受容および影響について―『婦女雑誌』を中心に―」（日本思想史研究会6月例会、2012年6月30日、東北大学）
- 菊地敬「明恵上人の思想―思慕から捨身へ―」（日本思想史研究会5月例会、2013年5月25日、東北大学）
- 若色智史「大橋訥庵における攘夷運動とその批判について―佐藤一斎門下を中心に―」（日本思想史研究会5月例会、2012年5月26日、東北大学）
- 若色智史「幕末における儒学者の立場について―大橋訥庵・池田草庵を中心に―」（日本思想史研究会4月例会、2013年4月27日、東北大学）
- 若色智史「内なる神―池田草庵の自己修養について―」（「体験としてのカ

- ミ」、2013年8月11日、うぶかの郷)
- 柴田一郎「保田與重郎の文学論——ロマン主義から国学へ——」(日本思想史研究会6月例会、2013年6月15日、東北大学)
- 柴田一郎「保田與重郎の古典論」(日本文芸研究会第1回研究発表大会、2013年9月7日、東北大学)
- 森本輝嗣「横井小楠における天の観念」(日本思想史研究会7月例会、2014年7月26日、東北大学)
- 安江哲志「西田幾多郎の気概——主権・国体・皇室・民族——」(日本思想史研究会6月例会、2013年6月15日、東北大学)
- 安江哲志「直接的なものにおける他者の問題——西田幾多郎の現実世界の認識をめぐって——」(日本思想史研究会5月例会、2014年5月17日、東北大学)
- 加藤駿「高度成長期思想史の試み——丸山眞男「正統と異端」研究から——」(第一回日中若手研究フォーラム、於中国・北京外国語大学、2013年9月21日)
- 加藤駿「初期社会主義者の性愛観——堺利彦の場合——」(日本思想史研究会6月例会、2014年6月21日、東北大学)
- 久保雄太郎「伊藤仁斎の初期思想と転換期」(日本思想史研究会6月例会、2014年6月21日、東北大学)
- 松本学「平田篤胤の医学—その諸側面について—」(日本思想史研究会7月例会、2014年7月26日、東北大学)
- 王一兵「近世知識人の旅——大槻平泉を中心に——」(日本思想史研究会5月例会、2014年5月17日、東北大学)
- クラウタウ、オリオン「村上専精と「日本仏教の特色」」第18回日本近代仏教史研究会、2010年5月22日、於 国学院大学
- クラウタウ、オリオン「村上専精と〈日本仏教の特色〉」第18回日本近代仏教史研究会、於國學院大學、2010年5月22日
- Klautau, Orion. “Religious Studies in Brazil: Modernity, Catholicism and the State” (Panel: Comparative Perspectives on the Development of ‘Religious Studies’) XXth IAHR Quinquennial World Congress, University of Toronto, 2010.8.19
- Klautau, Orion. “(Re)inventing ‘Japanese Buddhism’: Murakami Senshō and the Writing of History” (Panel: Rethinking Japanese Buddhism: Kawaguchi Ekai and Murakami Senshō) XXth IAHR Quinquennial World Congress, University of Toronto, 2010.8.20

クラウタウ、オリオン「尊皇奉仏大同団とその思想的営為」日本宗教学会第 69 回学術大会、2010 年 9 月 4 日、於 東洋大学

クラウタウ、オリオン「真宗とアカデミズム仏教学——東京（帝国）大学を中心に」（パネル「近代仏教と真宗の問題」）日本思想史学会 2010 年学術大会、2010 年 10 月 17 日、於 岡山大学

Klautau, Orion. “Shin Buddhist Faith and the Academic Study of Buddhism in Modern Japan” (Workshop: Defining Shin Buddhist Modernity) American Academy of Religion 2010 meeting, Atlanta (GA), 2010.10.31

クラウタウ、オリオン「十五年戦争期の日本仏教論——アカデミズムを中心に」（公開シンポジウム「十五年戦争と近代仏教」）日本近代仏教史研究会第 19 回研究大会、於淑徳大学、2011 年 6 月 4 日

クラウタウ、オリオン「フェシズム期における日本仏教論とその諸問題」（公開シンポジウム「仏教の誤読」）、日本文芸研究会・第 63 回研究発表大会、於東北大学、2011 年 6 月 11 日

KLAUTAU, Orion. “Buddhism in Essence and Manifestation? Perspectives on Shōtoku Taishi and Shinran during the Fifteen-Year War” (Panel Session “Modern Framings of Shin Buddhism: Historical, Literary and Institutional Adaptations of the 20th and 21st Centuries”), Fifteenth Biennial Conference of the International Association of Shin Buddhist Studies, Kyoto, Otani University, 2011.8.5.

クラウタウ、オリオン「十九世紀末における仏教公認運動とその思想史的意義」2011 年度日本宗教史懇話会サマーセミナー、於京都エミナース、2011 年 8 月 25 日

クラウタウ、オリオン「立憲国家の成立と近代仏教の思想的展開」第 73 回民衆思想研究会・東北近世史研究会（合同特別例会）、於東北大学、2011 年 8 月 27 日

クラウタウ、オリオン「明治中期における日本仏教の言説的位相——仏教公認運動を中心に」（パネル「新しい近代日本仏教研究へ——自他認識・国民国家・社会参加」）、於関西学院大学、2011 年 9 月 3 日（『宗教研究』第 71 号に要旨掲載）

KLAUTAU, Orion. “Revisiting the ‘Three Nation’ Discourse: Early 20th Century Narratives on the Distinctive Features of ‘Japanese Buddhism’” (Panel “The Construction of Religion between China and Japan, 1860s - 1930s”) Association of

Asian Studies 2012 Annual Conference, Toronto (Canada), March 2012.

船田淳一「中世神道説における冥と顕——慈遍を中心に——」日本思想史学会
2011年度大会、2011年10月30日、於・学習院大学。

船田淳一「日本中世の神祇・神道説と東アジア」、説話文学会 学会創設50周年
記念大会シンポジウム 2012年6月23日、於・立教大学

船田淳一「中世巡礼の精神史——冥途・蘇生譚をめぐって——」、巡礼記研究会
最終研究集会 2012年10月13日、於・神奈川県立金沢文庫

船田淳一「中世の巡礼における冥界と曼荼羅の問題」、日本思想史学会 2012年
度大会シンポジウム 2012年10月27日、於・愛媛大学

船田淳一「白毫寺一切経縁起と死穢の問題—南都律僧による神祇信仰の特質—」日
本宗教民俗学会平成25年度大会、2013年6月

船田淳一「中世の春日神と死者—白毫寺の一切経転読儀礼と穢れをめぐって—」体
験としてのカミ（於・うぶかの郷）、2013年8月

船田淳一「西大寺長老清算の宗教活動をめぐって」日本思想史研究会月例会（於・
東北大学）、2013年11月

船田淳一「西大寺十代長老「清算」考」日本仏教総合研究学会第12回大会（於・
金沢大学）、2013年12月

船田淳一「中世の死をめぐる儀礼」比較思想学会近畿支部例会（於・佛教大学）、
2014年1月

3 大学院生・学部生等の受賞状況

船田淳一「第6回日本思想史学会奨励賞（2012年度）」受賞（受賞理由：船田淳
一『神仏と儀礼の中世』、2011年、法蔵館）

4 日本学術振興会研究員採択状況

(PD) 2010年、受け入れ。

(DC) 2010年、採択。

(PD) 2011年、受け入れ。

5 留学・留学生受け入れ

5-1 大学院生・学部学生等の留学数

2014年 学部生 オランダ・フローニンゲン大学 (University of Groningen)。

5-2 留学生の受け入れ状況（※延べ人数）

年度	学部	大学院	計
10	2	6	8
11	1	8	9
12	0	7	7
13	0	8	8
14	5	8	13
15	10	8	18
計	18	45	63

6 社会人大学院生の受け入れ数（※延べ人数）

年度	前期課程	後期課程	計
10	2	0	2
11	2	0	2
12	3	0	3
13	2	1	3
14	2	1	3
15	3	3	6
計	14	5	19

7 専攻分野出身の研究者・高度職業人

7-1 専攻分野出身の研究者

- 鈴木啓孝 韓国・東義大学校助教授 2010年度～
- 先崎彰容 東日本国際大学東洋思想研究所准教授 2010年度～
- 中嶋英介 中国・蘭州大学外国語学院日語系外籍教師 2010年度～
- 岡安儀之 中国・西安外国語大学専任講師 2011年度
- 昆野伸幸 神戸大学大学院国際文化科学研究科准教授 2011年度～
- 大川 真 大崎市立吉野作造記念館館長 2011年度～
- 長田麻美 中国・西安外国語大学専任講師 2012年度
- 葛 睿 中国・西安外国語大学専任講師 2012年度～
- 本村昌文 岡山大学大学院社会文化科学研究科准教授 2013年度～
- 桐原健真 金城学院大学文学部准教授 2013年度～
- 森川多聞 東北大学大学院文学研究科助教 2013年度～

油座圭佑 仙台高等専門学校総合科学系助教 2014年度～
小嶋 翔 大崎市立吉野作造記念館主任研究員 2014年度～
クラウタウ・オリオン 東北大学大学院国際文化研究科准教授 2015年度～
船田淳一 金城学院大学文学部准教授 2015年度～
富樫進 東北福祉大学教育学部専任講師 2015年度～
ジョナサン・モリス 駒沢女子大学人文学部国際文化学科講師 2015年度～

7-2 専攻分野出身の高度職業人

2010年度 研究所所員 1
2011年度 高教員 2
2014年度 高教員 1

8 客員研究員の受け入れ状況

2013年度 リサーチフェロー 中嶋英介（中国・蘭州大学）
2013年度 周異夫（中国・吉林大学）
2013年度 蔡鳳林（中国・中央民族大学）
2013年度 李聖恵（韓国・釜山大学校）
2014年度 邢永鳳（中国・山東大学）
2014年度 王凱（中国・南開大学）

9 外国人研究者の受け入れ状況

10 刊行物

『日本思想史研究』（年刊）
『年報日本思想史』（年刊）

11 学会・研究会・講演会・シンポジウム等の開催・事務局等引き受け状況

日本思想史学会事務局、2008年10月～2011年9月
日本思想史学会2009年度大会、2009年10月17・18日
シンポジウム「関東大震災と近代日本のリーダー——渋沢栄一・後藤新平・吉野作造——」（共催）、2013年3月9日
東北大学日本思想史研究室・北京日本学研究中心研究交流会（共催）、2013

年 9 月 20・21 日

日本思想史学会 2013 年度大会、2013 年 10 月 19 日・20 日

東北大学大学院国際文化研究科講演会「熊本の藩校 時習館における釋奠の問題」(共催)、2014 年 6 月 28 日

1 2 専攻分野主催の研究会等活動状況

2010 年度

日本思想史研究会月例会 9 回開催

東北大学・奈良女子大学・東北芸術工科大学合同研究会

日本思想史研究会・仙台近現代史共催シンポジウム「近代日本の戦争と宗教」

2011 年度

日本思想史研究会月例会 4 回開催

日本思想史研究会・文芸研究会合同研究発表会(9 月)

2012 年度

日本思想史研究会月例会 7 回開催

2013 年度

日本思想史研究会月例会 6 回開催

2014 年度

日本思想史研究会月例会 4 回開催

2015 年度

日本思想史研究会月例会

1 3 組織としての研究・教育活動に関する過去 5 年間の自己点検と評価

日本思想史専攻分野は、2015 年 5 月 20 日現在、学部生 26 名・大学院生 25 名が所属しており、留学生も 5ヶ国から 10 名を受け入れている。教員一人当たりの学生数としては、文学研究科の中でもトップを争う位置にある。

大学院入試において本専攻分野を志願するものはきわめて多く、ここ 10 年間は毎年前期課程・後期課程を合計して、専攻分野の定員のほぼ 2~3 倍に当たる 6~9 名の大学院生を受入れている。他大学からの志願者の割合がきわめて多いことも本専攻分野の特色であり、現在在籍する大学院生の 7 割以上が東北大学以外の出身である。

東北大学の日本思想史研究室は、日本における思想史研究の草分けともいえる古い伝統を持つが、その伝統に安住することなく、国内はもとより国際的な研究センター

の役割を果たすべく、研究・教育のレベルアップを図ってきた。

本専攻分野では授業の他に、大学院生の主催する数多くの自主的な読書会（史料講読会）がもたれている。本専攻分野の大学院生・OBが中心となって「日本思想史研究会」が結成されているが、同研究会は毎月第3土曜日に月例の公開研究発表会を開催し、大学院生や東北大学内外の研究者が発表を行っている。

大学院生には、日本思想史学会をはじめとする全国学会での発表を積極的に勧めている。研究室からは、『日本思想史研究』『年報日本思想史』2冊の雑誌を毎年刊行し、院生の研究発表の場を拓げる努力を行っている。また定評ある全国学会誌への投稿を奨励しており、『日本思想史学』『日本歴史』『宗教研究』『日本史研究』『仏教史学研究』『歴史』『歴史評論』など、当該分野でよく読まれている雑誌に毎年論文が採用されている。

すでに教員は毎年海外の国際学会での発表を実践し、国際的な研究者のネットワーク作りを推進しているが、学生にも海外への研究留学を体験してもらい、それを生かしたスケールの大きな研究者の育成を目指している。

2012年からは、佐藤弘夫が編集委員の一人となっている『日本思想史講座』（全5巻、ペリかん社）の刊行が、2013年からは『岩波講座日本の思想』（全8巻）の刊行が開始され、いずれの企画においても本専攻分野の関係者が数多く執筆している。

Ⅲ 教員の研究活動（2010～2015年度）

1 教員による論文発表等

1-1 論文

佐藤弘夫「近代の歴史学と立正安国論」『福神』14号、2010年。

佐藤弘夫「西行における「山」と救済」『西行学』1号、2010年。

佐藤弘夫「王都奈良の原像」『ならじあ2 東アジア共同体？』丸善、2010年。

佐藤弘夫「霊場と巡礼」『兵たちの極楽浄』高志書院、2010年。

佐藤弘夫「変貌する日本仏教観」『新アジア仏教史12』佼成出版社、2010年。

佐藤弘夫「「蒙古の調伏者」日蓮像の形成」『仏教美術研究上野記念財団助成研究会報告書』37号、2010年。

佐藤弘夫「本地垂迹の世界観」『日本の対外関係3 通行・通商圏の拡大』吉川弘文館、2010年。

佐藤弘夫「彼岸に通う音—神仏の声がノイズになるとき」『文学』11巻6号、2010年。

- 佐藤弘夫「中世における神観念の変容」『中世神話と神祇・神道世界』竹林舎、2011年.
- 佐藤弘夫「アマテラス神話の中世」『季刊東北学』27号、2011年.
- Sato Hiroo “Changes in the Concept of Mountains in Japan” *Cahiers d'Extreme-Asie*、18号、2011年.
- 佐藤弘夫「彼岸に誘うカミ—日本の浄土信仰におけるイメージとヴィジョン」『死生学研究』16号、2011年.
- 佐藤弘夫「中世の女性の結婚と仏教」『アジア遊学』157号、2012年.
- 佐藤弘夫「祟り・治罰・天災—日本列島における災禍と宗教」『宗教研究』373号、2012年.
- 佐藤弘夫「親鸞の聖徳太子観」『中世文化と浄土真宗』思文閣出版、2012年.
- 佐藤弘夫「未来予知の作法」生活と文化の歴史学1『経世の信仰・呪術』竹林舎、2012年.
- Sato Hiroo “Kami that Beckon from the Far Shore” *Bulletin of Death and Life Studies*、8号、2012年.
- 佐藤弘夫「総論 古代の思想」『日本思想史講座』1 古代、2012年.
- 佐藤弘夫「本地垂迹」『日本思想史講座』1 古代、2012年.
- 佐藤弘夫「天皇像の変容—頭の歴史学から冥頭の歴史学へ」『冥頭論』法蔵館、2012年.
- 佐藤弘夫「中世「仏教」文明の形成と君主権」『「仏教」文明の受容と君主権の構築』勉誠出版、2012年.
- 佐藤弘夫「江戸の怪談にみる死生観」『死生学年報』2013年度、2013年3月.
- 佐藤弘夫「記録される思想／流通する思想」『岩波講座日本の思想』2、2013年5月.
- Sato Hiroo “Where to next for Shinkoku thought?” *Contemporary Japan* 25-1, 2013年5月
- Sato Hiroo “The Emergence of SHINKOKU(Land of Gods) Ideology in Japan” *Buddhism and Nativism* , Brill, 2013年8月.
- 佐藤弘夫「本地垂迹の近世」『「神仏習合」再考』勉誠出版、2013年9月.
- 佐藤弘夫「論理・精神・コスモロジー—日本の神・再考」『日本の哲学』13、2013年12月.
- 佐藤弘夫「聖なるものへ」『岩波講座日本の思想』8、2014年1月.
- 佐藤弘夫「南奥羽の板碑と霊場」『講座東北の歴史』5、2014年2月.

- 佐藤弘夫「中世の民衆思想」『岩波講座日本歴史』7, 2014年4月.
- 佐藤弘夫「死者・人・神—日本列島における多文化共生の伝統」『北海学園大学人文論叢』57、2014年8月.
- 佐藤弘夫「日蓮の国家観」シリーズ日蓮『日蓮の思想とその展開』2014年11月.
- 佐藤弘夫「記憶される死者 忘却される死者」『死生学年報』2015、2015年3月.
- 佐藤弘夫「目に見えぬものたちと生きる—日本列島におけるケアと共生の系譜」『哲学』66、2015年4月.
- 片岡龍「伊藤仁斎の学問観 —〈公共〉への参与と鑑識—」『公共する人間1 伊藤仁斎』東京大学出版会、2011年
- 片岡龍「韓日思想架橋：伊藤仁斎と丁茶山の間から」『世界と相通する慶北正体性国際フォーラム予稿集①』韓国学振興院、2011年
- 片岡龍「旦暮遇之一荻生徂徠『学則』中の断層—」『人間と文化研究』18、東義大学校人文社会研究所、2011年
- 片岡龍「石田梅岩から考える「公共する」実践」『公共する人間2 石田梅岩』東京大学出版会、2011年
- 片岡龍「『論語』在日本的解説」『全球倫理秩序与東亜資源』第4届中韓日国際学術研究会予稿集、2011年
- 片岡龍「日本における『論語』の読まれ方 —伊藤仁斎（京都）・荻生徂徠（江戸）・照井一宅（盛岡）・下村湖人（佐賀）を中心に—」『東日本国際大学研究紀要』7、2012年3月
- 片岡龍「十八、十九世紀日本の精神資源の探求—松平定信・広瀬淡窓・山田方谷を中心に—」『ともに学びあう山田方谷・譚嗣同・崔漢綺 東アジアから世界へ』（樹福書院、2012年）
- 片岡龍「昌益から考え直す 3.11 以後の「自然」と「命」」『現代に生きる安藤昌益』（お茶の水書房、2012年）
- 片岡龍「鏡としての歴史」『日本で日本人に語った「韓生」と「韓心」と「韓魂」の公共哲学物語り』（図書出版モシヌン・サラムドゥル、2012年）
- 片岡龍「二宮尊徳の公共実践」『アリストテレスと儒学の哲学対話』（国立台湾大学、2012年）
- 片岡龍「自然の暴力と日本人の心理世界」『憤怒の二つの顔—韓日文化比較研究—』（檀国大学校日本研究所・慶熙大学校非暴力研究所、2012年）
- 片岡龍「多様な生命との新鮮な出会い」『一韓民学者の初めて接した日本の彼方

- 此方』（樹福書院、2012年）
- 片岡龍「14世紀末から16世紀半ばにおける「公共」の用例の検討—『朝鮮王朝実録』と『韓国文集叢刊』を中心に—」『韓国と日本の公共意識比較研究』（韓国学中央研究院、2012年）
- 片岡龍「「思想史」の水路をつけかえるために」『植民地時代の文化と教育—朝鮮・台湾—』（東北大学出版会、2013年）
- 片岡龍「『朝鮮王朝実録』に見える「公共」の用例の検討」（『国際日本学研究叢書18 相互探求としての国際日本学—日中韓文化関係の諸相—』（法政大学国際日本学研究中心、2013年）
- 片岡龍「「憲法十七条」の「和」を読み直す」『グローバル時代の東アジア平和思想』（東日本国際大学、2013年）
- 片岡龍「天の秩序と東アジア思想」『岩波講座日本の思想4 自然と人為——「自然」観の変容』（岩波書店、2013年）
- 片岡龍「『朝鮮王朝実録』に見える「公共」の用例の検討」『＜国際日本学とは何か？＞東アジアの中の日本文化』（三和書籍、2013年）
- 片岡龍「退溪門下から旅軒・張頤光にいたる「公共」——人間主体・社会・自然——」『2013 韓中日公共意識比較研究国際学術会議 朝鮮王朝の公共性』（韓国学中央研究院、2013年）
- 片岡龍「日本思想史から見た韓国思想史の特徴と新しい可能性」2014年第4回嶺南退溪学研究院・公共哲学共働研究所共同主催国際学術大会『嶺南学派の現代的継承と新しい学派成立の可能性』嶺南退溪学研究院、2014.8
- 片岡龍「朝鮮時代の公共とソンビ」アサン書院開院2周年記念学術会議「ソンビ精神と韓国社会：未来のリーダーシップを求めて」アサン政策研究院（ソウル）、2014.9<韓国語>
- 片岡龍「前近代日本の公共観の特徴—前近代韓国との対比、研究の方向性を念頭に置いて—」漢陽大学日本学国際比較研究所・BK21Plus 日本研究特性化チーム共同主催 国際学術シンポジウム『日本文化と公共性』漢陽大学校日本韓国諸比較研究所、2014.11
- 片岡龍「日本思想史から見た韓国思想史の特徴——山崎闇齋と李退溪の「心は神明の舎」観の比較から—」『東北大学文学研究科紀要』64、2015.3
- 片岡龍「退溪門下から旅軒・張頤光にいたる「公共」——人間主体・社会・自然——」（日本語）『AJ ジャーナル』10、国土館大学アジア・日本研究センター、

2015. 3. 20

富樫進「雷電の声と将門の悪——『将門記』をめぐって——」（古代文学会編『古代文学』52、2013年3月、127～134頁）。

富樫進「毘廬遮那如来への〈みち〉——空海の言語観をめぐって——」（日本思想史学会編『日本思想史学』45、2013年9月、91～109頁）。

富樫進「〈ほとけの言葉〉は伝わるか」（古代文学会編『古代文学』54、2015年3月、53～60頁）

富樫進「比叡山造鐘譚に見る嵯峨上皇——伝田澄「比叡山建立縁起」を起点として——」（小林真由美・北條勝貴・増尾伸一郎編『寺社縁起の古層——注釈と研究——』所収。2015年3月、法藏館。21～64頁）

桐原健真「河口慧海——求法の道の終着点」、小川原正道編『近代日本の仏教者』慶應義塾大学出版会、2010年04月、245～275頁

桐原健真「『帝国』の思想」、吉田忠編『19世紀東アジアにおける国際秩序観の比較研究』財団法人国際高等研究所、2010年06月25日、111～128頁

桐原健真「幕末維新时期尊攘論における国際社会認識の転回——「帝国」言説をめぐって」、韓日文化交流基金・東北亜歴史財団編『19101910년—그 이전 100년 : 한국과 일본의 서양문명수용 (1910年—その以前の100年 : 韓国と日本の西洋文明受容)』ソウル・景仁文化社、3～53頁、内3～28頁韓国語訳。

桐原健真「『第三の開国』とはなにか？ : 戦後日本における自他認識の転回(1945～1980)」「『文化』74巻3号、1～20頁、2011年

森川多聞「天野貞祐の規範意識」『日本思想史学』42号、日本思想史学会、2010年9月。

森川多聞「南原繁の「個人」——フィヒテ的「宗教」理解をめぐって——」（『日本思想史研究』45号、2013年）。

岡安儀之「新聞記者の誕生—福地源一郎の自己認識を中心に—」『日本思想史研究』第44号、2012年3月

岡安儀之「福地源一郎における「輿論」と「国民」—華士族をめぐる論争を題材に—」『メディア史研究』第34号、2013年9月

岡安儀之「福地源一郎の自治論—福沢諭吉との比較を中心に—」『近代日本研究』第31巻、2015年2月

1-2 著書・編著

- 佐藤弘夫『韓国語版 概説日本思想史』ノンヒョン社、2010年。
- 佐藤弘夫『日本中世の国家と仏教』歴史文化セレクション、吉川弘文館、2010年。
- 佐藤弘夫『新アジア仏教史11 日本仏教の礎』（共編）佼成出版社、2010年。
- 佐藤弘夫『新アジア仏教史12 躍動する中世仏教』（共編）佼成出版社、2010年。
- 佐藤弘夫『新アジア仏教史13 民衆仏教の定着』（共編）佼成出版社、2010年。
- 佐藤弘夫『日本列島の死生観（韓国語）』図書出版ムン、2011年。
- 佐藤弘夫『新アジア仏教史14 近代国家と仏教』（共編）佼成出版社、2011年。
- 佐藤弘夫『新アジア仏教史15 現代仏教の可能性』（共編）佼成出版社、2011年。
- 佐藤弘夫『ヒトガミ信仰の系譜』岩田書院、2012年。
- 佐藤弘夫『日本思想史講座 1 古代』（共編）、ペリかん社、2012年4月。
- 佐藤弘夫『日本思想史講座 2 中世』（共編）、ペリかん社、2012年7月。
- 佐藤弘夫『日本思想史講座 3 近世』（共編）、ペリかん社、2012年12月。
- 佐藤弘夫『日本思想史講座 4 近代』（共編）、ペリかん社、2013年6月。
- 佐藤弘夫『岩波講座日本の思想 1』（共編）、2013年4月。
- 佐藤弘夫『岩波講座日本の思想 2』（共編）、2013年5月。
- 佐藤弘夫『岩波講座日本の思想 6』（共編）、2013年6月。
- 佐藤弘夫『岩波講座日本の思想 4』（共編）、2013年8月。
- 佐藤弘夫『岩波講座日本の思想 5』（共編）、2013年9月。
- 佐藤弘夫『岩波講座日本の思想 7』（共編）、2013年12月。
- 佐藤弘夫『岩波講座日本の思想 8』（共編）、2014年1月。
- 佐藤弘夫『鎌倉仏教』ちくま学芸文庫、2014年1月。
- 佐藤弘夫『岩波講座日本の思想 3』（共編）、2014年2月。
- 佐藤弘夫『韓国語版 神国日本』ノンヒョン社、2014年7月。
- 片岡龍『公共する人間 1 伊藤仁斎』（共編）東京大学出版会、2011年1月
- 片岡龍『公共する人間 2 石田梅岩』（共編）東京大学出版会、2011年10月
- 片岡龍『ともに学びあう山田方谷・譚嗣同・崔漢綺 東アジアから世界へ』（共編）樹福書院、2012年6月
- 片岡龍『現代に生きる安藤昌益』（共編）、お茶の水書房、2012年
- 片岡龍『＜国際日本学とは何か？＞東アジアの中の日本文化』（共編）、三和書籍、2013年
- 富樫進『奈良仏教と古代社会——鑑真門流を中心に——』東北大学出版会、2012

年6月。

富樫進『カミと仏と死者』（共編著）岩田書院、2015年3月

桐原健真編『東北大学臨床死生学研究会研究報告』東北大学臨床死生学研究会、2010年10月

1-3 翻訳、書評、解説、辞典項目等

佐藤弘夫「書評：ルチア・ドルチェ、松本郁代編『儀礼の力』」『週刊読書人』2847号、2010年。

佐藤弘夫「親鸞とその時代」『無限洞』6号、2010年。

佐藤弘夫「再生する親鸞—今村親鸞論の位置」『無限洞』7号、2010年。

佐藤弘夫「今に問う言葉」3回連載『読売新聞』2010年。

佐藤弘夫「「ヒトガミ信仰」の系譜」『金光教学』50号、2010年。

Sato Hiroo “Review: Lucia Dolce, Matsumoto Ikuyo, eds., *The Power of Ritual*”

CSJR Newsletter, 20-21, 2010年。

佐藤弘夫「死者と出会う場所」『生と死への問い』東北大学出版会、2011年。

佐藤弘夫「死者からのまなざし—生きること・生かされること」『今を生きる 1. 人間として』東北大学出版会、2012年。

佐藤弘夫「時を湛えた空間—歴史学における「空間」の発見」『建築遺産 保存と再生の思考』東北大学出版会、2012年。

佐藤弘夫「書評：伊藤聡著『中世天照大神信仰の研究』」『日本歴史』764、2012年。

佐藤弘夫「魯迅のいた日」『東北大学史料館だより』17、2012年

佐藤弘夫「書評：磯前順一著『宗教概念あるいは宗教学の死』」『図書新聞』3085、2012年。

佐藤弘夫「日蓮聖人真蹟の観照」『日蓮聖人と法華の至宝』2、同朋舎メディアプラン、2012年。

佐藤弘夫「災害は天罰か」『寺門興隆』2013年1月号、2013年1月。

佐藤弘夫「死者とどう生きるか」『寺門興隆』2013年2月号、2013年2月。

佐藤弘夫「親鸞の作った偽書」『「偽」なるものの「射程」』勉誠出版、2013年3月。

佐藤弘夫「幽霊の誕生—変転する死者と社会との関わり」『日本史の方法』10、2013年3月。

佐藤弘夫「本地垂迹思想」など4項目『日本思想史事典』東京堂出版、2013年9月。
佐藤弘夫「親鸞の神祇観」『親鸞の水脈』14、2013年10月。
佐藤弘夫「幽霊はなにゆえ現れるのか」『月刊住職』4月号、2014年4月。
佐藤弘夫「彼岸に響く音」『怪』41号、角川書店、2014年4月。
佐藤弘夫「お墓は何のためにあるのか」『月刊住職』3月号、2014年3月。
佐藤弘夫「親鸞における死と救済—現代における親鸞思想の可能性」『親鸞の水脈』
16、2014年9月。
佐藤弘夫「眼に見えぬものたちと生きる」『都市問題』9月号、2014年9月。
佐藤弘夫「教養という力」『曙光』38、2014年10月。
佐藤弘夫「書評：小山聡子著『親鸞の信仰と呪術』」『二松学舎大学 人文論叢』
93、2014年10月。
佐藤弘夫「日本の民間信仰における霊魂観」『大法輪』11月号、2014年11月。
佐藤弘夫「書評：大河内千恵『近世起請文の研究』」『日本歴史』800、2015年1
月。
佐藤弘夫「書評：林田憲明著『火山島の神話』」『早稲田学報』1210、2015年3月。
片岡龍「伊藤仁斎の「哲学」を東アジアから、世界の「公共」のために再読する」
『公共的良識人』222号、2010年5月1日
片岡龍「私たちはどのようなときに道徳的行為者となるのか」『公共的良識人』
227号、2010年10月1日
片岡龍「儒学・儒教は日中韓をむすび・つなぎ・いかすことができるのか」『公
共的良識人』228号、2010年11月1日
片岡龍「自己実現（満足）から自他の幸福共創（共福）へ」『公共的良識人』229
号、2010年12月1日
片岡龍「東北から誠意をこめて」『公共的良識人』234号、2011年5月1日
片岡龍「東日本の複合災害と「東学的ゾンビ」の開關志向」『公共的良識人』236
号、2011年7月1日
片岡龍「人間観・経営観・幸福観の「良心」を軸としたパラダイム転換を」『公
共的良識人』239号、2011年10月1日
片岡龍「何故日韓で『論語』と『荘子』を語りあうのか」『公共的良識人』240号、
2011年11月1日
片岡龍「絶望の向こうに希望を」『中日新聞』夕刊、2011年10月28日
片岡龍「「敬」を学んだ二つの旅」『公共的良識人』241号、2011年12月1日

片岡龍「震災と尊徳、そして希望への道」『公共的良識人』242号、2012年1月1日

片岡龍「悲しみを抱えて生きる」『世界』829号、2012年4月1日

片岡龍「除災祈福の公共哲学に参加して」『公共的良識人』245号、2012年4月1日

片岡龍「世代継承生生する歴史を生かし直す」『公共的良識人』246号、2012年5月1日

片岡龍「将来世代観点から東アジアの思想を受け取りなおす」『公共的良識人』247号、2012年6月1日

片岡龍「安藤昌益は大阪でどう語られたか」『公共的良識人』248号、2012年7月1日

片岡龍「南里有隣『真教十要』解説と翻刻」『日本思想史研究』44号、2012年3月。

片岡龍「間からつなぐ幸福」『公共的良識人』253号、2012年12月1日

片岡龍「生き残ってしまったものの責務」『いわきから問う東日本大震災 フクシマの復興と日本の将来』昌平齋出版会、2013年6月

片岡龍・ジョナサン・モリス・李月珊（共訳）ジェームズ・マクマレン（著）「荻生徂徠・松平定信と寛政期の孔子崇拝」（『日本思想史研究』45、2013年）

片岡龍「国境を越えた、人間と地域の交流のために：『民際一知と文化』書評」『週刊読書人』3021号、2014年1月3日

片岡龍「書評：濱野精一郎『頼山陽の思想』」『河北新報』2014年3月30日ほか

片岡龍「生命共創の先端地 仙台から」『未来共創新聞』第17号、2014年3月31日

片岡龍「都市は議論の結晶」『未来共創新聞』第18号、2014年5月31日

片岡龍「生命共創の海へ」『未来共創新聞』第19号、2014年7月31日

片岡龍「安藤昌益を語る 道徳価値から生命価値へ」（金泰昌氏・左漢卿氏・山本恭司氏との座談会）『未来共創新聞』第20号、2014年9月30日

片岡龍「来訪神と共に創る」『未来共創新聞』第21号、2014年10月31日

片岡龍「日中韓で二宮尊徳を語る 近代の設計思想は破綻」（金泰昌氏・左漢卿氏・山本恭司氏との座談会）『未来共創新聞』第22号、2015年1月31日

片岡龍「日本の李退溪受容」『未来共創新聞』第23号、2015年4月20日

片岡龍「未来共創と渡来人」『未来共創新聞』第23号、2015年4月20日

大川真 渡辺浩著「日本政治思想史 十七世紀～十九世紀」,2010年5月7日 『週刊読書人』2837号。

大川真「新井白石と正徳の治」,「荻生徂徠と古学」,「『葉隠』『五輪書』と武士道」,「富永仲基の大乗非仏論」(『大法輪』(特集日本の仏教と日本の思想), pp.77-9, pp.89-91,93,大法輪閣, 2010年9月1日)

大川真「学びの場のこれから—シンポジウム「近世の旅と名所」を終えて—」,単著, 査読有, 2011年3月25日, 『年報日本思想史』10号,日本思想史研究会
富樫進「〈貴種〉を捨てた〈聖〉たち」(旅の文化研究所編『まほら』第79号、2014年4月、44・45頁)

富樫進「[書評]伊藤由希子著『仏と天皇と「日本国」——『日本靈異記』を読む——』(日本思想史学会編『日本思想史学』46、2014年9月、212～217頁)

桐原健真 中村義・久保田文次・陶徳民・藤井昇三・川邊雄大・町泉寿郎編『近代日中関係史人名辞典』東京堂出版、2010年7月、(小牧昌業・本田成之・河口慧海・能海寛)

桐原健真「情報の海」を越えて——吉田陰の情報との向き合い方に学ぶ『人間会議』2011年6月、夏号56～61頁

トマス・ツイード著(桐原健真、オリオン・クラウタウ共訳)「米国オカルティズムと日本仏教——A・J・エドマンズと鈴木大拙、そしてトランスロカティブな歴史叙述」『年報日本思想史』11号、2012年、1～31頁

桐原健真「開国物語」を解体する」藤原書店『環』50号、2012年、436～439頁

森川多聞「貝塚茂樹著『戦後道徳教育の再考：天野貞祐とその時代』」『日本歴史』795号、2014年8月

1-4 口頭発表

(1) 国際学会

佐藤弘夫「「日本思想」は存在するか」国際シンポジウム・東アジアの思想と対話—国境・テキスト・礼楽、嶺南大学、韓国、2010年11月。

佐藤弘夫「中世「仏教」文明の形成と君主権」国際シンポジウム・君主権の構築と「仏教」文明、早稲田大学、2010年12月。

Hiroo Sato “Transition of the View of Mountains in Japan” International Conference on Arts and Humanities 2011, USA, 2011年1月。

佐藤弘夫「彼岸に誘う神—日本の浄土信仰におけるイメージとヴィジョン」国際シンポジウム・イメージとヴィジョン 東西比較の試み、東京大学、2011年2月。

Hiroo Sato “The Destination of the Dead” 国際シンポジウム・Combinatory Practices in

- Japan: Rethinking Religious Syncretism, University of London, UK, 2011年2月.
佐藤弘夫「東北アジアにおける多文化共生の伝統」国際シンポジウム・東北アジアにおける多文化共生、内モンゴル大学、中国、2011年8月.
- Hiroo Sato “The Dead, The Living, The Gods as the Driving Forces of History” EAJS International Conference, Tallinn University, Estonia, 2011年8月.
佐藤弘夫「仏教文化と死生観」東明大学校講演会、東明大学校、韓国、2011年11月.
佐藤弘夫「日本列島の死生観の歴史」大韓日語日文学会国際学術発表会、新羅大学校、韓国、2011年11月.
- Hiroo Sato “The Birth of the Ghosts” カリフォルニア大学セントバーバラ校講演会、USA、2012年2月.
佐藤弘夫「蛇形のアマテラスー日本列島におけるカミの誕生と変貌」東亜道文化国際学術研究会、北京大学、中国、2012年7月.
佐藤弘夫「日本列島における幽霊の発生」シンポジウム「東アジアにおける宗教と文化」、台湾国立政治大学、2012年10月
佐藤弘夫「幽霊の誕生ー怪談から見直す日本文化論」東アジア日本研究フォーラム、中国社会科学院、2012年11月
- Hiroo Sato “The Birth of the Ghosts in Japanese Horror Culture” International Conference on Arts and Humanities 2013, USA, 2013年1月.
佐藤弘夫「ゆるキャラの逆襲ーサブカルから見直す日本文化論」（基調講演）日中若手研究フォーラム、北京日本学研究中心、2013年9月
佐藤弘夫「日本と東アジアのカミを考える」（基調講演）国際シンポジウム：関係性における日本、韓国、台湾大学、2014年10月
佐藤弘夫「生と死のあいだー介護・看取り・葬儀」（基調講演）オープンパーナードシップセミナー：介護・看取りの現場に根ざす新たな思想史・文化史研究の構築、中国社会科学院、2013年11月
- Hiroo Sato “The Ghosts in Edo period: in search for the wellspring of Japanese horror culture” International Conference on Arts and Humanities 2014, USA, 2014年1月.
佐藤弘夫「先祖は山に棲むか？ー日本人と山・再考」「国際シンポジウム：記憶の場としての東アジア」中国、華東師範大学、2014年8月.
片岡龍「石田梅岩から考える「公共する」実践」第97回公共哲学京都フォーラム大阪リーガロイヤルホテル「公共する人間としての石田梅岩を日中韓で語り合う」2010. 7. 25
片岡龍「「礼楽」の開く公共世界ー荻生徂徠の思想からー」第97回公共哲学京都フォーラム大阪リーガロイヤルホテル「儒学(儒教)の開く公共世界」2010. 9. 11

- 片岡龍「韓日思想架橋：伊藤仁斎と丁茶山の間から」世界と相通する慶北正体性国際フォーラム、韓国学振興院（韓国・安東）、2011. 6. 3
- 片岡龍「日本における『論語』の読まれ方 —伊藤仁斎（京都）・荻生徂徠（江戸）・照井一宅（盛岡）・下村湖人（佐賀）を中心に—」第105回公共哲学京都フォーラム「論語と荘子のあわい」京都リーガロイヤルホテル2011. 9. 18
- 片岡龍「『論語』在日本的解読」第4回中韓日国際学術シンポジウム、山東大学文史哲研究院、2011. 10. 26-29
- 片岡龍「公共する人間としての二宮尊徳」第106回公共哲学京都フォーラム「二宮尊徳を日中韓でともに語りあう」神戸ポートピアホテル、2011. 11. 27
- 片岡龍「安藤昌益における危機に立ち向かう主体」第110回公共哲学京都フォーラム「東アジアにおける公共する人間としての安藤昌益を日中韓で語りあう」樹福書院会議室（大阪）、2012. 7. 15
- 片岡龍「二宮尊徳の公共実践」東アジア共通善の探求国際学術研究会「アリストテレスと儒学の哲学対話」、国立台湾大学水源校区哲学系館301会議室（台北）、2012. 10. 6
- 片岡龍「自然の暴力と日本人の心理世界」檀国大学校日本研究所・慶熙大学校非暴力研究所主催「韓日国際学術シンポジウム 憤怒の二つの顔—韓日文化比較研究—」、慶熙大学校中央図書館視聴覚室（ソウル）2012、11. 3
- 片岡龍「『朝鮮王朝実録』に見える「公共」の用例の検討」韓国倫理教育学会国際学術大会「東西洋の公共幸福と倫理教育」忠北大学校開新文化館（チョンジュ）、2012、11. 15
- 片岡龍「14世紀末から16世紀半ばにおける「公共」の用例の検討—『朝鮮王朝実録』と『韓国文集叢刊』を中心に—」公共意識国際学術会議「韓国と日本の公共意識比較研究」、国立古宮博物館大講堂（ソウル）、2012. 11. 21
- 片岡龍「「憲法十七条」の「和」を読み直す」第五回日中韓国際学術シンポジウム「グローバル時代の東アジア平和思想」、東日本国際大学（いわき）、2012. 6. 23
- 片岡龍「退溪門下から旅軒・張頤光にいたる「公共」 —人間主体・社会・自然—」韓国学中央研究院主催2013韓中日公共意識比較研究国際学術会議「朝鮮王朝の公共性」、ヤンピョンフォレストペンション、2013. 10. 1
- 片岡龍「16世紀後半から17世紀初めの朝鮮の身心観 —李退溪・盧守慎・許浚・張頤光を中心に—」国際日本文化研究センター・共同研究会「心身／身心」

と「環境」の哲学—東アジアの伝統的概念の再検討とその普遍化の試み—
(京都)、2014.5.11

片岡龍「日本思想史から見た韓国思想史の特徴と新しい可能性」2014年第4回嶺南退溪学研究院・公共哲学共働研究所共同主催国際学術大会「嶺南学派の現代的継承と新しい学派成立の可能性」嶺南退溪学研究院(大邱)、2014.8.15

片岡龍「朝鮮時代の公共とゾンビ」アサン書院開院2周年記念学術会議「ゾンビ精神と韓国社会：未来のリーダーシップを求めて」アサン政策研究院(ソウル)、2014.9.26

片岡龍「前近代日本の公共観の特徴—前近代韓国との対比、研究の方向性を念頭に置いて—」漢陽大学日本学国際比較研究所・BK21Plus 日本研究特性化チーム共同主催 国際学術シンポジウム「日本文化と公共性」、漢陽大学(ソウルキャンパス)白南学術情報館6F国際会議室、2014.11.22

富樫進「最澄の言語観——三国思想との関わりで——」、日中若手フォーラム、中国・北京外国語大学日本学研究センター、2013年9月20日。

桐原健真「幕末維新时期尊攘論における国際社会認識の転回——「帝国」言説をめぐって」、韓日文化交流基金／東北亜歴史財団主催「1910年、その以前の100年：韓国と日本の西洋文明受容」(於大韓民国仁川市・パラダイスホテル、2010年6月12日～13日)

桐原健真「The Quest for Mahayana: Kawaguchi Ekai and the Buddha's "Golden Words"」、International Association for the History of Religions「パネルセッション：Rethinking Japanese Buddhism: Kawaguchi Ekai and Murakami Sensho」、カナダ・トロント大学、2010年08月20日

桐原健真「他者としての「中国」研究——近代日本における学知の形成」、嶺南大学校中国学研究センター・東北大学大学院日本思想史研究室共同開催国際シンポジウム「東アジアの思想と対話：国境・テキスト・礼楽」・パネルセッション「日本における中国研究の現況」(於大韓民国慶山市・嶺南大学校、2010年11月20日)

(2) 国内学会

佐藤弘夫「島の魅力—ああ、松島や」地中海トーキング、地中海学会、東北大学、2010年、6月19日。

佐藤弘夫「再生する親鸞—今村親鸞論の位置」シンポジウム：今村社会哲学と仏教—『親鸞と学的精神』をめぐって、仙台、2010年7月8日。

佐藤弘夫「シンポジウム：神と王の呪縛・コメント」東北中世史サマーシンポジ

- ウム：神と王の呪縛—人々を統合するもの、仙台、2010年8月29日。
- 佐藤弘夫「シンポジウム：近代日本の宗教・コメント」日本思想史学会大会シンポジウム：近代日本の宗教—仏教を中心に、岡山大学、2010年10月16日。
- 佐藤弘夫「生と死のあいだ—看取り・葬儀・供養」多文化フォーラム：多文化からみた死と看取り、仙台、2010年11月28日。
- 佐藤弘夫「幽霊の誕生—江戸時代における死者供養の変容」日本宗教学会第70回学術大会、2011年9月3日。
- 佐藤弘夫「神・彼岸・コスモロジー—歴史学における「空間」の発見」シンポジウム：空間を記述せよ—方法・史料・表象をめぐって」東北大学、2011年9月7日。
- 佐藤弘夫「論理・精神・コスモロジー—日本の神・再考」土井道子記念京都哲学基金主催シンポジウム、2011年12月。
- 佐藤弘夫「パネル：戦後日本仏教学説の課題・コメント」日本宗教学会第71回学術大会、2012年9月9日。
- 佐藤弘夫「幽霊の誕生—変転する死者と生者とのかかわり」シンポジウム「死と社会」奈良女子大学、2012年12月8日。
- 佐藤弘夫「神・人・死者—日本列島における多文化共生の伝統」（招待講演）北海学園大学人文学部開設20周年記念シンポジウム、2013年5月18日。
- 佐藤弘夫「鎌倉新仏教像の形成と変容」（招待講演）シンポジウム：日本仏教史像の近代的構築、2013年9月14日。
- 佐藤弘夫「彼岸に誘う神—本地垂迹の中世」（招待講演）皇学館大学史学会講演会、2013年10月24日。
- 佐藤弘夫「現代日本社会における宗教共同体と論理」（招待講演）宗教倫理学会大会シンポジウム、2014年10月。
- 佐藤弘夫「死者とカミの間—ヤスクニの思想と語られる死者の系譜」（招待講演）日本思想史学会大会シンポジウム：死者の記憶、愛知学院大学、2014年10月。
- 佐藤弘夫「日蓮聖人の国家観」（招待講演）「シリーズ日蓮」刊行記念公開講演会、立正大学、2015年3月。
- 佐藤弘夫「蛇形のアマテラス」公開シンポジウム：文化資源としての神仏習合、福岡大学、2015年3月。
- 片岡龍「植民地大学の学術の特色をどのように捉えるか—京城帝国大学を中心に

- 一」国際日本文化研究センター共同研究会「帝国と高等教育—東アジアの文脈」2010年度第6回研究会、東京大学教養学部2号館5階会議室、2011. 2. 5
- 片岡龍「東北から、災害に向きあう新たな人間像を考える」第104回公共哲学京都フォーラム「東日本大震災を公共哲学する」神戸ポートピアホテル2011. 8. 22
- 片岡龍「安藤昌益から再び自然と命（魂）を考え直す」（片岡龍）安藤昌益研究会、変革のアソシエ（東京中野）2014. 3. 19
- 片岡龍「智蔵説再考 —将来世代観点からともに幸福を感じあう」樹福実学共働学習会、樹福書院会議室（大阪）2013. 11. 14
- 片岡龍「藤井貞幹 —W・Aの源流を求めて」樹福実学共働学習会、樹福書院会議室（大阪）2013. 12. 20
- 片岡龍「行基 —日本思想史を‘良心の教材化’として共働実学する」樹福実学共働学習会、樹福書院会議室（大阪）2014. 2. 24
- 片岡龍「安藤昌益から再び自然と命（魂）を考え直す」安藤昌益研究会、変革のアソシエ（東京中野）2014. 3. 19
- 片岡龍「濱野靖一郎『頼山陽の思想』書評 —加藤周一・松平定信・アレント「判断」と朱熹「智蔵」説—」島根県立大学、2014. 11. 29
- 大川真、「執拗くなる怨霊—江戸時代における憑霊と怨霊との対話—」、2010年5月20日、第6回東北シャマニズム研究会、東北大学。
- 大川真「江戸のつぶれ家」、2010年11月9日、空間史学研究会第1回大会、東北大学。
- 大川真「明治元年における天台宗—鳥取大雲院所蔵「慶応四年 朝政御一新ニ付 延暦寺建言」をめぐって—」、2010年12月、科学研究補助金 基盤研究B「東照宮祭祀の確立と展開」（研究代表者：曾根原理）研究報告会、於東京。
- 富樫進「最澄の不空受容」あたらしい古代史の会6月例会、2012年6月23日、東京都世田谷区・成城大学。
- 富樫進「インドの発見と仏教東漸—不空仏教の受容を中心に—」日本思想史学会2012年度大会、2012年10月28日、愛媛県松山市・愛媛大学。
- 富樫進「最澄門流における嵯峨天皇の位置づけ—比叡山造鐘説話をめぐって—」寺社縁起の研究・研究例会、2013年7月23日、東京都世田谷区・成城大学。

富樫進「〈ほとけの教え〉は夷にとどくか——9世紀前期日本の〈方言〉に関する言説をめぐって——」日本文学協会第34回研究発表大会。2014年7月12日、福島県いわき市・いわき明星大学。

富樫進「〈ほとけ〉の言葉は伝わるか——古代日本における悉曇受容をめぐって——」古代文学会2014年度夏期セミナー「〈音〉を書く」。2014年8月21日、神奈川県足柄下郡箱根町・旅館千條。

富樫進「〈ほとけの教え〉は辺地に響くのか——最澄・空海の言語的实践を中心に——」第15回岡山大学哲学倫理学会大会。2015年2月7日、岡山県岡山市北区・岡山大学。

桐原健真「世界観闘争としての真宗護法論」（日本思想史学会2010年大会・パネルセッション3「近代仏教と真宗の問題」、2010年10月17日、岡山市・岡山大学）

桐原健真「護法・護国・夷狄」（日本思想史学会2011年度大会・パネルセッション「幕末維新期の護法思想・再考」、2011年10月30日、東京都豊島区・学習院大学）

森川多聞「南原繁の秩序意識—『国家学会雑誌』上における論争を中心に」日本文芸研究会、2010年12月。

森川多聞「元良勇次郎の「宗教」的観念」（日本思想史学会2014年度大会、2014年10月26日、於愛知教育大）

岡安儀之「福地源一郎における「自治」」（日本思想史学会2013年度大会、2013年10月20日、於東北大学）

岡安儀之「福地源一郎の文体論」（日本文芸研究会第66回大会、2014年6月15日、於東北大学）

岡安儀之「明治知識人とメディア—福沢諭吉と福地源一郎を中心に—」（メディア史研究会第242回月例研究会、2014年7月26日、於日本大学三崎町キャンパス）

2 教員の受賞歴（2010～2015年度）

桐原健真「第4回日本思想史学会奨励賞（2010年度）」受賞（受賞理由：桐原健真『吉田松陰の思想と行動——幕末日本における自他認識の転回』東北大学出版会、2009年）

IV 教員による競争的資金獲得（2010～2015年度）

（1）科学研究費補助金

佐藤弘夫（研究代表者）基盤研究（C）「板碑を素材とする思想史研究の新たな領域と方法の開拓」2008～2010年度、388万円

佐藤弘夫（研究分担者）基盤研究（B）（研究代表者大淵憲一）「現代日本人の価値観：古層と伝統的思想の影響」2010～2012年度、

佐藤弘夫（研究代表者）基盤研究（C）「石塔と金石文を素材とする思想史研究の新たな領域と方法の開拓」2011～2013年度、507万円

佐藤弘夫（研究代表者）特別研究員奨励費「近代における「日本仏教」論の形成と展開」2010～2011年度、150万円

佐藤弘夫（研究分担者）挑戦的萌芽（研究代表者中西裕二）「フォークロア・ハラトクスを止揚する」2012～2014年度、377万円

佐藤弘夫（代表者）二国間交流事業共同研究／セミナー「介護と看取りの現場に根ざす新たな思想史・文化史研究の構築」2013年度、250万円。

佐藤弘夫（代表者）基盤研究（C）「「不幸な死者」の観念の比較文化論的研究」2014～2017年度、481万円

片岡龍（研究代表者）挑戦萌芽研究「「図説」と「書画」の分析・比較による近世思想史研究領域の拡大と深化」2009～2011年度、270万円

大川真（研究分担者）基盤研究（B）「東照宮祭祀の基盤・確立・展開」（研究代表者曾根原理、2008年～2010年度。

大川真（研究代表者）若手研究（スタートアップ）「18世紀後期日本における近代的国家論の思想史的研究」（課題番号20820005）、2008～2009年度、1560千円。

富樫進（研究代表者）若手研究（B）「日本古代における戒律思想の定着と発展」（課題番号24720034）、2012～2014年度、232万円。

桐原健真（研究代表者）研究成果データベース「日本思想史文献データベース検索」、2006年度～、90万円

桐原健真 日本学術振興会科学研究費・基盤（C）「現代日本の死生観の発掘と倫理的基礎づけ——在宅ホスピスの現場との連携を通して」（竹之内裕文代表）、2008年～2010年度、70万円

桐原健真（研究代表者）若手研究（B）「『帝国』の思想史的研究」、2009年度～、300万円

桐原健真 日本学術振興会科学研究費・基盤（B）「「農」の哲学の構築—学際的な拡がりの中で」（鬼頭秀一代表）、2010年4月採択、25万円（研究分担者）

桐原健真 日本学術振興会科学研究費・基盤（C）「地域社会にみる死生観の現在に関する複合的研究」（諸岡了介代表）、2010年4月採択、80万円（研究分担者）

桐原健真（研究代表者）研究成果データベース「日本儒林叢書テキストデータベース」、2011年度～、250万円

桐原健真 日本学術振興会科学研究費・基盤（C）「幕末維新时期護法論の思想史的研究」（桐原健真代表）、2012年4月採択、208万円（研究代表者）

森川多聞（研究代表者）若手研究（B）「元良勇次郎の思想史的研究—宗教と倫理」（課題番号 15K20869）、2015～2016 年度、195 万円

岡安儀之（研究代表者）研究活動スタート支援「新聞メディアからの明治前期思想研究の再検討—福地源一郎を中心に」（研究課題番号：26884005）、2014～2015 年度、195 万円

（2）その他

桐原健真 2007 年度財団法人笹川医学医療研究財団在宅ホスピス緩和ケア研究助成「看取る文化の再構築—在宅ホスピスのための死生観教育プログラムの開発」（竹之内裕文代表）、2007 年 4 月～2010 年度、10 万円

桐原健真 2007 年度東北大学若手研究者萌芽研究育成プログラム「医療現場との対話による「臨床死生学」の確立—歴史的・文化的アプローチに基づいた「死生」観研究とそのアーカイブ化」（桐原健真代表）、2007 年～2010 年度、200 万円

V 教員による社会貢献（2010～2015 年度）

佐藤弘夫

日本学術会議連携会員（2011 年 10 月～）

日本と東アジアの未来を考える委員会（2009 年度～）

仙台市博物館協議会委員（2010 年度～）

長野県名勝地調査検討委員会（2012 年度～）

講演「霊場・城下町・学都—仙台・誕生と変貌の軌跡」みやぎ県民大学、2010 年 9 月.

講演「死者に出会う場所」奈良歴史学入門講座、奈良女子大学、2011 年 6 月.

講演「幽霊の誕生」高大連携講演会（仙台一高）、2011 年 11 月.

講演「幽霊の誕生」東北大学 105 周年関西交流会、2012 年 2 月.

講演「江戸時代の幽霊にみる死生観」東洋英和女学院大学死生学研究所連続講座、2012 年 6 月.

講演「学校の怪談—怪異の起こる〈場〉」高大連携講演会（仙台一高）、2012 年 11 月.

講演「仙台歴史散歩—仙台以前の仙台を歩く」仙台明治青年大学、2012 年 12 月.

招待講演「親鸞の神祇観—神祇不拝と神仏習合」真宗文化センター講演会、2013 年 4 月.

講演「幽霊の誕生」斎理蔵の講座、2013 年 6 月.

招待講演「近江の霊場と信仰世界」仙台市立博物館講演会、2013 年 8 月.

招待講演「前方後円墳の思想—大和と東北をつなぐもの」奈良県特別講座 2013 年 10 月.

招待講演「親鸞における死と救済」真宗文化センター講演会、2014年4月。
公開講座「幽霊の誕生」明治青年大学、2013年8月。
公開講座「幽霊の誕生」丸森はつらつ学園、2014年8月。
公開講座「慈覚大師の足跡」太白区中央老壮大学校、2014年9月。
講演「幽霊の誕生」萩友会九州交流会、2014年11月。
講演「慈覚大師の足跡」明治青年大学、2014年12月。
公開講座「幽霊の発生」八王子学園都市大学、2015年4月。
コーディネーター「ユネスコ世界記録遺産登録記念シンポジウム：伊達政宗、
私たちの夢」仙台市立博物館、2014年11月。

片岡龍

講演「リメンバー・ウーマンリブ！」東北大学文学部斎理講座、2010年7月
講座「日本人の幸福思想①」樹福書院講座、樹福書院会議室（大阪）2011, 9, 3
講座「日本人の幸福思想②」樹福書院講座、樹福書院会議室（大阪）2011, 10, 1
講座「日本人の幸福思想③」樹福書院講座、樹福書院会議室（大阪）2011, 11, 5
講座「日本人の幸福思想④」樹福書院講座、樹福書院会議室（大阪）2012, 1, 21
講座「日本人の幸福思想⑤」樹福書院講座、樹福書院会議室（大阪）2012, 2, 21
講演「震災から1年、フクシマの復興と日本の将来」東日本国際大学学術シンポジウム、東日本国際大学附属昌平中学校・高等学校体育館、2012, 3, 10
講座「日本人の幸福思想⑥」樹福書院講座、樹福書院会議室（大阪）2012, 3, 24
講座「将来世代観点からみた樹福実学①②」樹福実学共働学習会、樹福書院会議室（大阪）2012. 4. 23
講座「将来世代観点からみた樹福実学③④」樹福実学共働学習会、樹福書院会議室（大阪）2012. 5. 26
講座「将来世代観点からみた樹福実学⑤⑥」樹福実学共働学習会、樹福書院会議室（大阪）2012. 6. 23
講座「将来世代観点から幸福を考える①②」樹福実学共働学習会、樹福書院会議室（大阪）2012. 7. 21
講座「将来世代観点から幸福を考える③④」樹福実学共働学習会、樹福書院会議室（大阪）2012. 8. 30
講座「将来世代観点から幸福を考える⑤⑥」樹福実学共働学習会、樹福書院会議室（大阪）2012. 9. 2

- 講座「将来世代観点から幸福を考える⑦⑧」樹福実学共働学習会、樹福書
院会議室（大阪）2012. 10. 30
- 講座「将来世代観点から幸福を考える⑨⑩」樹福実学共働学習会、樹福書
院会議室（大阪）2012. 11. 13
- 講座「将来世代観点から幸福を考える⑪⑫」樹福実学共働学習会、樹福書
院会議室（大阪）2012. 12. 12
- 講座「大阪・東北・韓半島の時空をつなぐ旅①」樹福実学共働学習会、樹
福書院会議室（大阪）2013. 1. 13
- 講座「大阪・東北・韓半島の時空をつなぐ旅②」樹福実学共働学習会、樹
福書院会議室（大阪）2013. 2. 26
- 講座「大阪・東北・韓半島の時空をつなぐ旅③」樹福実学共働学習会、樹
福書院会議室（大阪）2013. 3. 23
- 講演「敬天愛人」を日中韓で公共する」第3回京都フォーラム実践部会、
中之島センタービル（大阪）、2013. 4. 6
- 講座「大阪・東北・韓半島の時空をつなぐ旅④」樹福実学共働学習会、樹
福書院会議室（大阪）2013. 4. 19
- 講座「大阪・東北・韓半島の時空をつなぐ旅⑤」樹福実学共働学習会、樹
福書院会議室（大阪）2013. 5. 25
- 講演「日中韓を架橋する人材を共に育む必要性」西安外大（西安）、
2012. 6. 5
- 講演「陽明学をともに実心・実学・実践する」第3回京都フォーラム実践
部会、中之島センタービル（大阪）、2013. 6. 15
- 講座「大阪・東北・韓半島の時空をつなぐ旅⑥」樹福実学共働学習会、樹
福書院会議室（大阪）2013. 6. 17
- 講演「日中韓を架橋する人材を共に育む必要性」西安外大（西安）、2012. 6. 5
- 講座「媒介能力を伸ばしあう「練習」①」樹福実学共働学習会、樹福書院
会議室（大阪）2013. 7. 22
- 講演「石田梅岩における<生きる技術>」第二回100年隆盛する事業の創
造と承継講座「石田梅岩の思想と日本企業」、盛和塾（大阪）、2013. 7. 23
- 講演「「媒介」再考と石田梅岩の読み直し」樹福実学共働学習会、樹福書
院会議室（大阪）2013. 8. 23
- 講演「陽明学をともに実心・実学・実践する②」第5回京都フォーラム実

践部会、中之島センタービル（大阪）、2013. 8. 30
講演「智蔵説再考 ―将来世代観点からともに幸福を感じあう」樹福実学
共働学習会、樹福書院会議室（大阪）2013. 11. 14
講演「藤井貞幹 ―W・Aの源流を求めて」樹福実学共働学習会、樹福書院
会議室（大阪）2013. 12. 20
講演「行基 ―日本思想史を‘良心の教材化’として共働実学する」樹福
実学共働学習会、樹福書院会議室（大阪）2014. 2. 24
講演「行基と聖徳太子」樹福実学共働学習会、樹福書院会議室（大阪）
2014. 3. 26
講座「異文化からの学びのために」樹福実学共働学習会、樹福書院会議室
（大阪）2014. 5. 31
講座「公共する人間の旅程」樹福実学共働学習会、樹福書院会議室（大阪）
2014. 7. 19
講演「21世紀から芦東山の思想を読みなおす」芦東山記念館開館記念日
にかかる講演会、芦東山記念館（一関）、2014. 10. 02
講座「新しい学と行の誕生に向けて」日本思想史からの提言」樹福実学共
働学習会、樹福書院会議室（大阪）2014. 10. 18
講演「共に生きる力」東日本国際大学公開講演会「人間力の育成」、東日
本国際大学（いわき）、2014. 11. 15
講演「韓国のゾンビと日本の侍（サムライ）」駐日韓国大使館韓国文化院
講演会シリーズ2015『韓日文化比較』第3回、韓国文化院 ハンマダ
ンホール、2015. 3. 11

大川真

吉野作造記念館（NPO 法人古川学人）主催次世代人材育成研究会事務局を担
当、また講師としても参加（宮城県大崎市）、2010年9月。

桐原健真

講演「あの世はどこへ行ったか」、NPO法人・介護者応援ネットワークみ
やぎ「介護と看取りのしゃべり場」2010年5月29日、於仙台市・戦災復
興記念館
講演「死して朽ちず：吉田松陰の死と生」（財団法人東北多文化アカデミー・
多文化講座「介護と看取りのセミナー」2011年03月05日・於仙台市・東
北多文化アカデミー
東日本大震災被災者支援団体「心の相談室」広報担当 2011年05月より現在

に至る

市民講座「「あの世」はどこに行ったか」、スマート・エイジングカレッジ、
2012年05月11日、仙台市・東北大学スマート・エイジング国際共同研究
センター

公益財団法人渋沢栄一記念財団「文化資源館」構想委員会委員、2012年09
月より現在に至る

森川多聞

市民講座「近代日本の死生観」スマート・エイジングカレッジ、2013年7
月5日、仙台市・東北大学スマート・エイジング国際共同研究センター

市民講座「近代日本の死生観」スマート・エイジングカレッジ、2014年6
月20日、仙台市・東北大学加齢研究所国際共同研究センター

市民ゼミ講座「日本近代宗教史①」スマート・エイジングカレッジ、2014
年11月4日、仙台市・東北大学加齢研究所国際共同研究センター

市民ゼミ講座「日本近代宗教史②」スマート・エイジングカレッジ、2014
年11月18日、仙台市・東北大学加齢研究所国際共同研究センター

市民ゼミ講座「日本近代宗教史③」スマート・エイジングカレッジ、2014
年12月2日、仙台市・東北大学加齢研究所国際共同研究センター

市民ゼミ講座「日本近代宗教史④」スマート・エイジングカレッジ、2014
年12月16日、仙台市・東北大学加齢研究所国際共同研究センター

市民ゼミ講座「日本近代宗教史⑤」スマート・エイジングカレッジ、2015
年1月20日、仙台市・東北大学加齢研究所国際共同研究センター

市民ゼミ講座「日本近代宗教史⑥」スマート・エイジングカレッジ、2015
年2月3日、仙台市・東北大学加齢研究所国際共同研究センター

市民ゼミ講座「日本近代宗教史⑦」スマート・エイジングカレッジ、2015
年2月17日、仙台市・東北大学加齢研究所国際共同研究センター

市民ゼミ講座「日本近代宗教史⑧」スマート・エイジングカレッジ、2015
年3月3日、仙台市・東北大学加齢研究所国際共同研究センター

VI 教員による学会役員等の引き受け状況（2010～2015年度）

佐藤弘夫

日本思想史学会評議員（2007年度～2014年度）

日本思想史学会会長（2010年度～2014年度）

日本文芸研究会委員（2007年度～）

東北史学会評議員（2007年度～）

日本宗教学会評議員（2010年度～）

片岡龍

日本思想史学会評議員（2008年度～）

中国社会文化学会評議員（2009～2011年度）

一関市芦東山記念館運営委員（2011年度～）

大川真

日本思想史学会事務局幹事（2008年度～2010年度）

日本文芸研究会編集委員（2008年度～）

富樫進

日本思想史学会事務局幹事（2011・2014年度）

日本思想史学会大会実行委員（2013年度）

日本文芸研究会大会委員（2012年度～2013年度）

日本文芸研究会総務委員（2014年度）

日本文学協会委員（2012年度～2014年度）

桐原健真

明治維新史学会委員（2000年度～）

日本文芸研究会委員（2008年度～2012年度）

日本思想史研究会査読委員（2008年度～）

岡安儀之

日本文芸研究会総務委員（2009年度～2010年度）

日本思想史学会事務局幹事（2015年度～）

VII 教員の教育活動（2015年度）

（1）学内授業担当

1 大学院授業担当

佐藤弘夫

2学期 日本思想史特論Ⅰ 霊場論

片岡龍

1学期 日本思想史特論Ⅱ 「思想史」とは何か

2学期 日本思想史特論Ⅲ 「思想史」とは何か

富樫進

1学期 日本思想史特論Ⅳ 都を夢見る鄙の人々—〈中央〉と〈辺境〉の思想史

頼住光子

集中講義（1学期）

日本思想史特論Ⅴ 日本仏教思想の諸問題

片岡龍

1学期 日本思想史研究演習Ⅰ 日本思想史の諸問題Ⅰ

2学期 日本思想史研究演習Ⅱ 日本思想史の諸問題Ⅱ

2 学部授業担当

佐藤弘夫

3 セメスター 日本思想史概論 「日本思想史」の課題と方法

片岡龍

3 セメスター 日本思想史基礎講読 古文・くずし字史料をよむ

4 セメスター 日本思想史概論 「日本思想史」の意義と発展

5 セメスター 日本思想史各論 「思想史」とは何か

6 セメスター 日本思想史各論 「思想史」とは何か

富樫進

4 セメスター 日本思想史基礎講読 古文・漢文史料をよむ

5 セメスター 日本思想史各論 都を夢見る鄙の人々―〈中央〉と〈辺境〉の思想史

頼住光子

集中講義（5 セメスター）

日本思想史各論 日本仏教思想の諸問題

片岡龍

5 セメスター 日本思想史演習 日本思想史の諸問題Ⅰ

6 セメスター 日本思想史演習 日本思想史の諸問題Ⅱ

3 共通科目・全学科目授業担当

森川多聞

1 セメスター 基礎ゼミ 近代日本の歴史と思想

2 セメスター 展開ゼミ 近代日本の歴史と思想

(2) 他大学への出講 (2010～2015 年度)

片岡 龍 東日本国際大学 2012 年度～

大川 真 米沢女子短期大学 2010 年度

富樫 進 東北学院大学 (文学部) 2012 年度～

富樫 進 東北薬科大学 (薬学科) 2013 年度

桐原健真 茨城大学 (人文学部) 2010 年度

桐原健真 尚絅学院大学 (人間心理学科) 2011 年度

森川多聞 尚絅学院大学 (人間心理学科) 2013 年度

森川多聞	東北学院大学（経済学部）	2014 年度～
森川多聞	東北薬科大学（薬学部）	2015 年度
岡安儀之	奥羽大学（歯学部）	2013 年度～2014 年度
岡安儀之	奥羽大学（薬学部）	2013 年度～
岡安儀之	東京国際大学（国際関係学部）	2014 年度～
岡安儀之	武蔵大学（人文学部）	2015 年度～